

かすみがうら市・石岡市・小美玉市

広報 国道6号バイパス

2019年4月1日号 発行/国道6号バイパス建設促進期成会 事務局/石岡市都市建設部都市計画課



▲国土交通省大臣室にて石井大臣と(左から7番目)



▲関東地方整備局にての要望活動の様子
石原整備局長・山本道路部長(左側)



▲国土交通省にての要望活動の様子
榊道路局長(正面)

「一般国道6号千代田石岡バイパス・美野里バイパス整備促進要望書」を提出しました

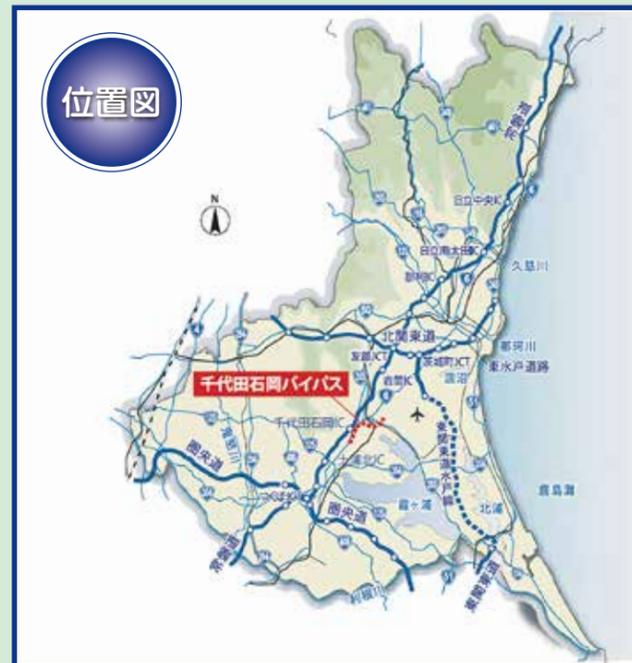
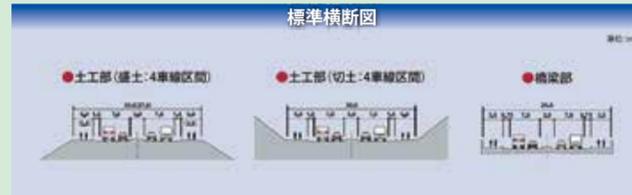
国道6号バイパス建設促進期成会では、平成30年8月7日に国土交通省や関東地方整備局、財務省などの関係機関や、地元選出の国会議員に対して要望書を提出し、かすみがうら市市川から石岡市東大橋までの整備促進及び残区間の早期事業化、美野里バイパスの早期都市計画決定、さらに当事業における事業費の確保についての要望活動を行いました。

当期成会の今泉文彦会長(石岡市長)は、各省庁等の対応者に対し、石岡市周辺部における国道6号の慢性的な交通渋滞が、地域産業や観光の振興、さらには沿線住民の日常生活にまで大きな支障となっている現状や、地域の安全確保に不安を抱えている状況について説明し、国道6号バイパスが一日も早く完成することを強く要望しました。

これを受けて、石井啓二国土交通大臣は「国道6号バイパスは平成10年度から事業化し着手しているため、もう20年が経過している。用地買収の箇所は全体の91%まできた。引き続き皆様方のお力をお借りし、早期完成を目指していければ」とのご意向を述べられたことにより、今後の事業の進展に大いに弾みがつくものと期待しております。

当期成会では、国道6号千代田石岡バイパスの早期完成等を目指して、これからも継続的に要望活動を実施してまいります。

計画諸元			
路線名	国道6号	標準幅員	一般部30.0m 橋梁部25.5m
延長	15.7km(事業化区間:5.8km)	車線数	4車線
区間	自:茨城県土浦市中貫	道路の区分	3種1級
	至:茨城県石岡市東大橋	設計速度	80km/時



国道6号千代田石岡バイパスってどんな道路なの？
石岡市街地の交通渋滞緩和と交通拠点へのアクセス機能の強化を図ります。

一般国道6号の土浦市から石岡市までの区間は、日交通量が約4万台に達しており、常磐道千代田石岡IC付近及び石岡市街地では慢性的な交通渋滞や沿道での事故が多発しています。このような問題を解消するために千代田石岡バイパスは計画されました。

本バイパスの整備により、石岡市内に混入する通過交通を分散させることで、交通渋滞の緩和や安全性の確保、さらには茨城空港へのアクセス時間の向上など、物流機能の強化や地域産業の振興に大きな効果が期待されます。



▲恋瀬橋北交差点付近の交通状況

国道6号 千代田石岡バイパス完成予想



▲石岡市石岡付近



▲石岡市東田中付近

編集後記

平成9年3月に都市計画決定、平成16年に工事着手された国道6号千代田石岡バイパスは、完成に向けて少しずつではありますが着実に事業が進んでおります。本広報誌をきっかけとして、皆様も6号バイパスに一層の興味関心を抱いていただけたら幸いです。今後も当期成会では、事業完成に向け、積極的な要望活動を行ってまいります。

問合せ先

石岡市都市建設部都市計画課 ☎0299-23-1111
かすみがうら市都市産業部都市整備課 ☎029-897-1111
小美玉市都市建設部特定プロジェクト整備課 ☎0299-48-1111



▲平成30年8月23日撮影



▲平成30年8月19日撮影

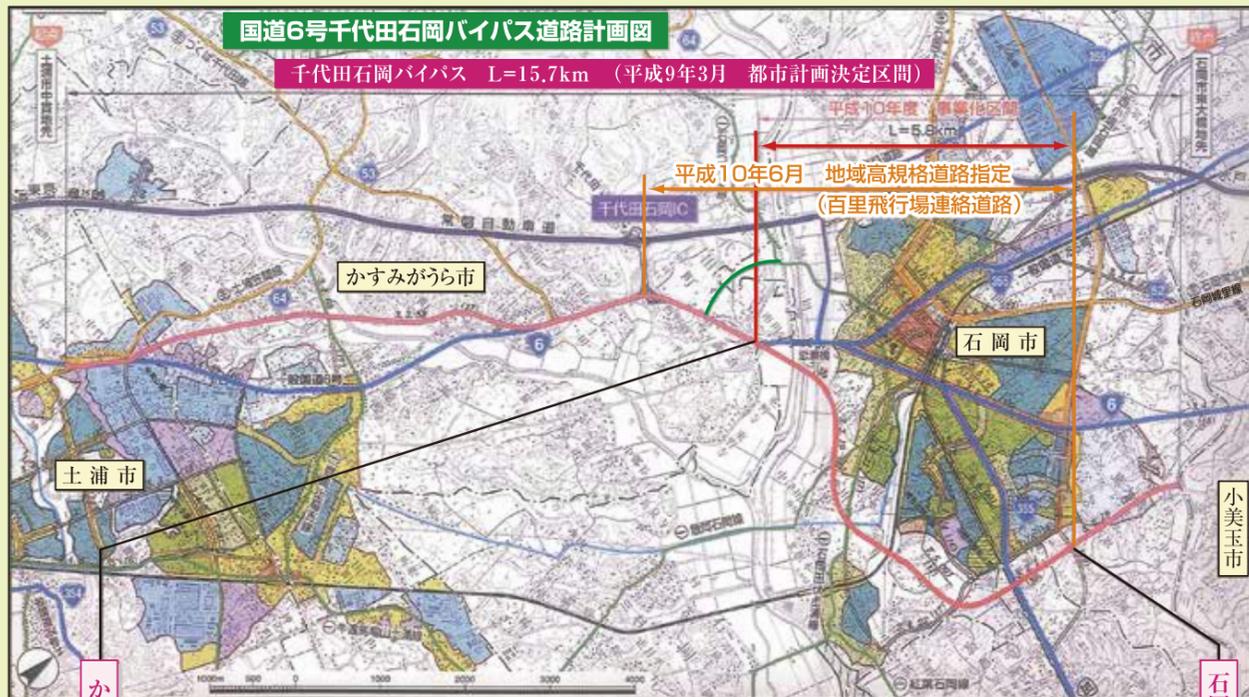
国道6号千代田石岡バイパスは平成9年3月に土浦市中貫く石岡市東大橋までの15.7km区間について都市計画決定され、そのうち、かすみがうら市市川く石岡市東大橋までの5.8km区間が平成10年度に事業化されており、現在、国土交通省により暫定2車線による整備が進められています。

平成30年11月末に石岡市北根本地区改良工事の本線の盛土や切土工事が完了し、同市東田中地区ほか改良工事では東大橋工区で切土等の改良工事、東田中工区で排水構造物等の工事が完了しました。また同市田島地区の本線の盛土工事・東田中地区の本線を跨ぐ跨道橋の下部工事のほか、本線の切土等の工事を進めています。

工事が進んでいます

事業の進捗状況

※用地買収の進捗率は、平成29年3月末現在(面積ベース)のものです。



かすみがうら市市川地区～石岡市東大橋地区
用地進捗率: 約91%

H30年度
調査設計
東田中地区ほか用地買収
東田中地区ほか改良工事



▲住居跡の見学の様子

埋蔵文化財の発掘調査が実施されました



▲出土品の説明の様子



▲現地説明会に展示された出土した土器等

国土交通省関東地方整備局から委託された公益財団法人茨城県教育財団により、国道6号千代田石岡バイパス建設事業に伴う文化財保護法に基づく中津川遺跡(石岡市)の発掘調査が実施されました。平成31年1月20日には現地説明会が開催され、茨城県内外から96名の来場者がありました。

今回の調査では、今から約4500年前の縄文時代中期の竪穴住居跡(17軒)、その周辺からは堅果類を貯蔵したと考えられる円筒状の土坑が数多く確認され、縄文土器を始め魚などを捕る網の錘と推測される大小様々な土器片錘が数多く出土しました。これらことから、当集落の縄文人は集落の周辺で採れるドングリなどの植物資源や、霞ヶ浦の水産資源を利用しながら生活を営んでいたことが想像できます。